

2012(平成24)年度事業報告書

1 法人の概要

(1)設置する学校、学科等および定員、学生数等

(単位:人)

			募集(入学)定員	収容定員	1年(入学者数)	2年	3年	計
聖霊女子短期大学								
本科	生活文化科	生活文化専攻 (生活文化コース)	50	100	41	24		65
		同(文化コミュニケーションコース)	40	80	22	26		48
		生活こども専攻	50	100	57	52		109
		健康栄養専攻	60	120	60	49		109
専攻科	健康栄養専攻		15	30	16	14		30
短期大学 計			215	430	196	165		361
聖霊女子短期大学附属高等学校			320	1,248	246	179	236	661
聖霊女子短期大学附属中学校			80	450	9	24	18	51
聖霊女子短期大学附属幼稚園			35	140	74			74

(2)役員、教職員

理事 9名、監事 2名、評議員 19名

(単位:人)

	教員	事務職員	その他職員	合計
聖霊女子短期大学	32	12	3	47
聖霊女子短期大学附属中学・高等学校	52	13	3	68
聖霊女子短期大学附属幼稚園	10	1	2	13
法人	0	1	0	1
合計	94	27	8	129

(3)建学の精神

聖霊会(聖霊奉侍布教修道女会)創立者アーノルド・ヤンセン神父は、すべての人が聖なる三位一体の神の、愛に満ちた一致へと集められることを願って、全世界に会員を派遣されました。

1908年に日本へ派遣された会員は、人々、特に女性が、人格の尊厳と、家庭と社会における自己の使命と役割に目覚め、神の期待される人間として成長できるようにと、聖霊学園を創設しました。

(4)教育理念

聖霊学園は、神の愛である聖霊によって一つに結ばれた共同体です。

ここでは、人間一人ひとりが神から与えられた、かけがえのない存在であると確信し、学園に学ぶすべての人が、神から期待される人間に成長できるように力を尽くします。

神の期待される人間とは、イエス・キリストにならい、神を敬い、自分をも人をも大切にし、人のために尽くしながら、人々と共に生きることのできる人です。

この教育理念に基づき、「光の子として歩みなさい。」を、教育目標としております。

(5) 法人の沿革

- 1908(明治41年) 檜山幼稚園開園
- 1909(明治42年) 私立女子職業学校開校
- 1915(大正 4年) 私立聖霊学院女子職業学校と改称
- 1923(大正12年) 私立聖霊女学院と改称
- 1928(昭和 3年) 私立聖霊高等女学院と改称
- 1941(昭和16年) 私立聖霊高等女学校と改称、幼稚園も同付属幼稚園と改称
従来の個人経営を財団法人聖霊学園に変更
- 1947(昭和22年) 中学校設置
- 1948(昭和23年) 新学制に伴い聖霊高等学校として転換設置
- 1951(昭和26年) 財団法人を、学校法人聖霊学園に変更
- 1954(昭和29年) 聖霊女子短期大学設置
中高を、聖霊女子短期大学付属中学・高等学校と改称
- 1955(昭和30年) 幼稚園を、聖霊女子短期大学付属幼稚園と改称

2 事業の概要

(1) 短期大学

a 学士審査結果

大学評価・学位授与機構の学士審査により、専攻科健康栄養専攻2年生13名が全員合格し、学士(栄養学)の学位が授与された。

b 管理栄養士国家試験結果

専攻科健康栄養専攻を修了し、栄養士としての実務1年間を経た10名が受験し、全員が合格した。全国平均の合格率は49.3%であった。

c 公開講座

講座名	回数	参加延人数
親子でクッキング	4	145
着物のリメイク	5	33
必ず身につくIT講座ー初級	8	78
必ず身につくIT講座ー中級	8	105
管理栄養士国家試験対応セミナー	9	433

d 国際交流

フィリピン文化セミナー : 平成24年7月に実施、11日間、参加学生 8名

ドイツ語圏研修旅行 : 平成24年12月から翌年1月に実施、23日間、参加学生 6名

アメリカ語学セミナー : 平成25年1月に実施、15日間、参加学生 6名

e 高大連携授業

講座名	回数	登録者数
食品と栄養の基礎知識	5	20
言葉の世界によろこ	5	6
よろこ保育の道へ	5	25
高校生のスポーツ栄養学	5	25
哲学はじめの一步	5	6

- f オープンキャンパス
平成24年7月7日・9月1日に実施。
オリエンテーション、体験授業、入試相談会、キャンパスツアー
- g ピア祭
平成24年 10月 6日・7日に実施。
手作りお菓子コンテスト、収益金の寄付ほか
- h 主な学生の活動
 - (a) 犯罪被害者支援大学生ボランティア 平成24年6月15日 学生 4名登録
 - (b) 子育て応援団すこやか秋田2012 平成24年7月28・29日 学生多数参加
 - (c) リーダー研修会 平成25年2月27・28日 学生 45名参加
 - (d) カトリック研究会 東京山谷ボランティア研修 平成25年3月1・2日 学生 6名参加
- i 卒業生の状況（2013年3月31日現在）
本科卒業生の就職決定率は97.5%で、進学は19名となっている。
また、専攻科については、全員が就職した。
- j 秋田県私大・短大魅力アップ支援事業
申請した次の2件の事業が認定され、補助金が交付された。
 - ① 楽器・演奏から育まれる感性と表現力の豊かな保育者育成を目指して
 - ② 社会的職業的自立のためのキャリア教育および職業教育の実践的授業方法の充実

(2) 高等学校

- a 生徒募集
高校見学会、進路相談会、入試説明会
- b 国際教育
聖霊女子短期大学の教師による特別授業
オーストラリア語学研修
アメリカ語学研修、姉妹校留学
- c 進路指導
進路講演会、特進コース宿泊研修、進学補習、勉強合宿、進学個人指導、就職指導
- d 静修
心の教育のため、各学年毎(中学は合同)に神父の講話を聞く。
- e 奉仕活動
聖霊降臨の奉仕活動として、福祉施設等の清掃などを行う。
クリスマス行事として、街角コンサートや手作りプレゼント等で、地域への感謝を表す。
- f 高校魅力アップ提案募集
教職員から29の応募があり、25年度から実施

- g 卒業生の進路状況（2013年3月31日現在）
進学：大学 100名、短大 61名、専門学校 55名
就職：8名
進学準備他：9名

(3) 中学校

- a 検定試験の奨励
英語検定試験
- b 各種大会への参加奨励
日本語弁論大会、英語暗唱大会
- c 奉仕活動
福祉施設等への訪問
- d 心の教育
月例ミサ

(4) 幼稚園

- a 基本テーマ
「光の子」としての成長
- b 教育の実践力向上
特色と主体性の発揮
PDCAの基礎の習得
特別支援の取り組み
県私立幼稚園連盟研究テーマへの取り組み
実習園としての学生指導
- c 子育て支援への取り組み
園開放日の充実
預かり保育の実施
つばみサークルと父母の会の活動活性化

3 施設、設備、機器等

短大：情報教育機器の整備、情報棟1階空調機更新

中高：授業用パソコン・サーバー更新、駐輪場外壁塗替

幼稚園：東側塀の更新

4 入学試験状況(2013年度入学分)

(1)短大

< 本科 > (単位:人)

	推薦	一般	社会人	合計
志願者	152	80	6	238
合格者	144	65	5	214
入学者	144	48	5	197

< 専攻科 >
(単位:人)

志願者	20
合格者	12
入学者	12

(2)高校

(単位:人)

	推薦	一般他	合計
志願者	97	480	577
合格者	96	465	561
入学者	96	113	209

5 今後の課題

短大 : 魅力作りと発信、付属高校との連携強化
シラバスと授業の充実
栄養教諭二種免許状の資格取得のための教職課程認定申請
短期大学基準協会の新基準に対応した自己点検・評価の推進

高校 : 学力向上を目指した学習指導の徹底と進路目標の達成
生徒数確保のための諸施策の検討と実施
魅力アップのための建物有効利用

中学 : 募集停止に係わる諸問題への対応

幼稚園 : 保育面に関する新制度と社会ニーズへの対応
園児増加のための魅力作りと募集運動の強化
教員の育成

法人 : 財務状況改善のための諸施策の検討と実施
短大、高校の施設・設備の改修および耐震化工事
幼稚園の保育面の施設・設備の検討

6 財務の概要

(1) 帰属収入、消費収入、消費支出の推移

(単位:百万円)

	帰属収入 a	消費収入 b	消費支出 c	a - c	b - c
平成13年度	1,832	1,652	1,857	-25	-205
14年度	1,548	1,448	1,447	101	1
15年度	1,481	1,406	1,454	27	-48
16年度	1,418	1,324	1,598	-180	-274
17年度	1,402	1,342	1,401	1	-59
18年度	1,359	1,271	1,362	-3	-91
19年度	1,444	1,351	1,435	9	-84
20年度	1,448	1,373	1,399	49	-26
21年度	1,275	1,213	1,250	25	-37
22年度	1,259	1,194	1,260	-1	-66
23年度	1,195	1,175	1,342	-147	-167
24年度	1,329	1,268	1,314	15	-46

(2) 平成24年度の状況

- a 帰属収入が消費支出を15百万円上回った。
- b 学生生徒納付金は昨年度比+9百万円、寄付金は同一2百万円、補助金は同一13百万、雑収入は同+136百万円となり、帰属収入は昨年度比+134百万円となった。
- c 人件費は昨年度比+14百万円で、消費支出は昨年度比-28百万円となった。

(3) 主要財務比率の推移

	帰属収支差額比率	人件費比率	金融資産比率	純負債比率	修正流動比率
平成13年度	-1.4	63.9	0.82	0.59	520.6
14年度	6.5	66.7	1.09	0.69	507.5
15年度	1.8	69.4	1.23	0.68	522.9
16年度	-12.7	83.7	1.38	0.66	577.6
17年度	0.1	73.6	1.44	0.63	598.6
18年度	-0.2	73.2	1.57	0.62	561.1
19年度	0.7	74.9	1.44	0.53	636.8
20年度	3.4	73.1	1.47	0.50	727.8
21年度	1.9	72.6	1.82	0.53	693.2
22年度	-0.1	73.1	1.87	0.52	774.9
23年度	-12.5	82.4	1.98	0.49	742.6
24年度	0.1	75.2	1.97	0.42	798.5

単位 : % 帰属収支差額比率
人件費比率
修正流動比率

単位 : 年 金融資産比率
純負債比率

- 算式
- 帰属収支差額比率 = (帰属収入 - 消費支出) ÷ 帰属収入 × 100
 - 人件費比率 = 人件費 ÷ 帰属収入 × 100
 - 金融資産比率 = 金融資産(現預金+有価証券+各種引当資産) ÷ 帰属収入
 - 純負債比率 = 純負債(総負債-前受金-退職引当金) ÷ 帰属収入
 - 修正流動比率 = (流動資産+その他固定資産) ÷ 流動負債 × 100

(4)財務状況に関する課題

- a 収入については、今後とも学生・生徒・園児数の減少が予測される地域において、いかに入学・入園者を確保するかが継続する最大の課題です。
また、国および県からの経常費補助金が減少傾向にあることも、マイナス要因です。
- b 支出については、同規模法人の平均値を上回っている人件費率を低下させる必要があります。
諸経費の削減については、各部門とも努力を続けており、今後も効率的な支出と予算管理の徹底が求められます。
- c 部門別収支では、平成25年度からの中学校募集停止による高校への影響を最小限にするため、さらなる魅力アップをはかる施策が必要です。
また、短大、幼稚園については、帰属収支改善のための諸施策を、たゆまず実施していくことが課題です。